

機関番号：32686

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520307

研究課題名（和文） フランス近・現代文学における「危機の書簡」 — 政治的考察の場としての「作家の手紙」

研究課題名（英文） 《Correspondance en crise》 dans la littérature française moderne : lettres d' écrivain comme lieu de réflexions politiques

研究代表者

澤田 直之 (SAWADA NAOYUKI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：90275660

研究成果の概要（和文）：本研究では 18 世紀～20 世紀のフランス文学を代表するジャン＝ジャック・ルソー、ギュスターヴ・フローベール、ジャン＝ポール・サルトルが、書簡の中で展開した政治的危機をめぐる考察を、書簡言説の特異性を考慮しつつ分析した。単純な自伝的読解へと傾きがちな書簡研究に新たな視点を導入するとともに、個々の作家の政治思想について新たな解釈の可能性を開くことができた。また、政治的なものとの関わりにおいて文学それ自体の歴史性を捉え直す作業も行った。

研究成果の概要（英文）：

La présente étude consiste à analyser les réflexions politiques dans la correspondance de trois écrivains majeurs de la littérature française : Jean-Jacques Rousseau, Gustave Flaubert et Jean-Paul Sartre.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：フランス文学・思想

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：書簡文学 / 政治 / サルトル / フローベール / ルソー

1. 研究開始当初の背景

（1）フランス文学における書簡研究は多様な広がりを見せており、分析の対象も、文学研究の視座からは「作品」の生成過程を照らす情報源としてのみならず作家の美学が表明される場としての役割、また歴史学の視座からは書簡というジャンルに固有な規範やレトリック（儀礼書、文例集研究）、あるいは書簡網が作り出す知のネットワークの研究などきわめて多岐にわたっている。

（2）これまで特に注目を集めてきたのは、書簡言説の「私的」性格、すなわち個人的感情の表出、受信者との親密な交流、私生活の表象などであった。告白、自画像ジャンルへ

と連なる書簡テキストの自伝的要素や、作家活動のような公的活動を禁じられた女性たちの「真情の吐露」をめぐる研究が既に蓄積されてきた。

（3）だが、書簡の「私的」性格に議論が集中することで、しばしば書簡に含まれる「公的」なものをめぐる考察、例えば作家による政治的考察や歴史的出来事をめぐる考察が、分析の対象から抜け落ちてしまう傾向があったことは否めない。

2. 研究の目的

（1）本研究は、現在の書簡研究の分野における重大な欠落を埋める第一歩とすべく、18

世紀～20世紀フランスを代表する作家・知識人の中から特にルソー（18世紀）、フローベール（19世紀）、サルトル（20世紀）の3人を取り上げ、これらの文学者が書簡の中で展開した政治的危機をめぐる考察を分析する。

（2）ルソー、フローベール、サルトルは各時代の最も重要な手紙の書き手であると同時に、最も注意深い「危機」の観察者でもあったが、ルソーと革命前夜の騒乱、フローベールと二月革命、サルトルと第二次世界大戦といった、それぞれの時代の象徴的な政治的出来事と危機的な状況を、各作家が書簡空間においてどのように記述したかを明らかにすることを目的とする。

（3）このようにして、三人の文学者の書簡を、その時代の文脈のなかで多面的かつ重層的に読解することにより、これまであまり注目されることのなかった書簡の「政治性」に光を当て、文学研究および書簡研究に新たな視座を導入することをもまた目的としている。

3. 研究の方法

（1）本研究は、ルソー、フローベール、サルトルの残した膨大な書簡を丹念に読み込み、その中から、政治的な考察を拾い上げ、検討するという文献研究を中心とする。その際それぞれの世紀、作家の固有性を考慮に入れつつ、18～20世紀にいたる文学的書簡の「政治性」について通史的なパースペクティブを描くことを試みた。

（2）本研究では、文学者の書簡を同時代の政治と交差させながら読むために、すでに刊行されている各作家の『全集』その他のエディションに加えて、多種多様な一次資料をパリのフランス国立図書館やフランス国立科学研究センター（CNRS）・近代テキスト草稿研究所（ITEM）等で調査を行ない、各作家の未刊行の書簡や草稿などの自筆原稿類、さらに各時代の政治的コンテクストに関わる文献（新聞、雑誌、政治史関係の本）などを集中的に精査した。

4. 研究成果

（1）本研究は、18世紀～20世紀フランスを代表する作家の「危機の書簡」を、書簡言説の特異性を考慮しつつ分析することで、ともすれば単純な自伝的読解へと傾きがちな近年の書簡研究に新たな視点を導入することができた。

（2）ルソー、フローベール、サルトルという3人の大作家にはすでに膨大な数の先行研究が存在する。書簡と政治に関する歴史の変遷を通時的に見通すところまでは行かなかったが、個々の作家の政治思想について新たな解釈の可能性を開くと同時に、政治的なものとの関わりにおいて文学それ自体の歴

史性を捉え直すことができた。

（3）さらに本研究は、公共圏／親密圏という近年注目を集めている問題について、私的な言説における政治的なものの記述という独自の観点から分析を加えることで、斬新な視座を見出し得たと考えている。

（4）ルソーに関しては、「危機」の書簡が、特に自伝的著作において作品化されるプロセスが明確に明らかになった。さらには、ルソーの死後最初に刊行された「全集」においてどのようにルソーの書簡が位置づけられ、公表されたかについても新たな知見を得ることができた。その成果の一端は、研究分担者桑瀬の口頭発表および発表論文で披瀝されている。

（5）フローベールに関しては、書簡の分析をふまえて、第二帝政という一つの時代における政治と美学との関係をより具体的に顕在化することができた。しばしば芸術至上主義者とみなされる一人の作家が、実は同時代の権力と両義的な関係を結んでいた様子を明らかにすることができた。その成果の一端は、研究分担者菅谷の口頭発表、発表論文、単行本で披瀝されている。

（6）サルトルに関しては、第二次世界大戦中の時期に関して『戦中日記』と書簡との関係を精査することによって、サルトルの政治及び歴史観が戦争によってどのように変化したのかが、きわめて具体的に明らかになるとともに、この変化が長編小説『自由への道』の執筆にどのような影響を与えることになったかも明らかにした。その成果は、研究代表者澤田の口頭発表および講演、発表論文誌上で披瀝された他、『自由への道』の翻訳・解説にも活用された。

（7）また、2010年5月に立教大学でフローベールに関するシンポジウムを開き、研究代表者と研究分担者が、それぞれサルトルとフローベールについて、これまでの調査を踏まえて明らかになってきた問題系を発表し、同時代の作家をフィールドとする研究者と討議することで、補完的な視点を持つことができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計20件）

- ① 澤田直、Le style est-il l'homme même? — ce que Sartre analyse chez Flaubert、『立教大学フランス文学』40号、査読有、95-108（2011）
- ② 菅谷憲興、La littérature comme négativité : Flaubert et Sartre、『立教大学フランス文学』40号、査読有、81-93（2011）
- ③ 澤田直、まなざすことと見ること——ジ

- ヤン＝リュック・ナンシーとイメージの問題、『フランス哲学思想研究』(日仏哲学会) 第15号、査読有、17-30(2010)
- ④ 澤田直、文学と哲学の草稿研究：サルトルの『カルネ』を中心に、『文学』(岩波書店) 査読無、73-89 (2010)
- ⑤ 菅谷憲興、Emma et la Guérine 『立教大学フランス文学』39号、査読有、69-80 (2010)
- ⑥ 菅谷憲興、Savoir de la mort et poétique du roman, Bulletin Flaubert-Maupassant、23号、査読無、299-308 (2009)
- ⑦ 桑瀬章二郎、ジャン＝フランソワ・ペラン「黙秘の権利から高貴な嘘へ」(解題)、『思想』(岩波書店) 1027号、査読無、91-94 (2009)
- ⑧ 桑瀬章二郎、ヤニック・セイテ「ルソー：思考すること、させること」(解題)、『思想』(岩波書店) 1027号、査読無、65-67 (2009)
- ⑨ 桑瀬章二郎、ルソー＝アンリエット書簡(解題・翻訳)、『思想』(岩波書店) 1027号、査読無、241-281 (2009)
- ⑩ 桑瀬章二郎、『告白』ヌーシャテル草稿序文(解題・翻訳)、『思想』(岩波書店) 1027号、査読無、229-240 (2009)
- ⑪ 桑瀬章二郎、ルソーの「統一性」再考 一体系、全集、自伝、『思想』(岩波書店) 1027号、査読無、45-64 (2009)
- ⑫ 桑瀬章二郎、井上櫻子、対訳で楽しむ『危険な関係』、『ふらんす』、85巻4～9号、査読無、(2009)
- ⑬ 澤田直、海老坂武、21世紀を生きるサルトル、『図書新聞』、2946号、査読無、(2009)
- ⑭ 澤田直、Sartre et les artistes japonais des années 60 - au miroir du zen、『立教大学フランス文学』38号、査読無、23-35 (2009)
- ⑮ 菅谷憲興、Pour une édition électronique du second volume de Bouvard et Pécuchet : le dossier médical、『立教大学フランス文学』38号、査読有、37-47 (2009)
- ⑯ 菅谷憲興、Flaubert et le roman démocrate, Balzac, Flaubert. La genèse de l'œuvre et la question de l'interprétation, textes réunis et présentés par Kazuhiro Matsuzawa, Global COE Program « Hermeneutic Study and Education of Textual Configuration », Graduate School of Letters, Nagoya University、査読無、111-116 (2009)
- ⑰ 菅谷憲興、Bouvard et Pécuchet et le savoir médical, Flaubert. Revue critique et génétique [en ligne]、1号、査読有、URL : <http://flaubert.revues.org/index392.htm> 1 (2009)
- ⑱ 桑瀬章二郎、意志としての作品——自伝の歴史から「書く意志」の歴史へ、『言語社会』(一橋大学大学院言語社会研究科)、68号、査読無、

68-87 (2009)

- ⑲ 桑瀬章二郎、啓蒙とフランス革命、『三色旗』(慶應義塾大学通信教育部)、728号、査読無、13-17 (2008)
- ⑳ 澤田直、人間と歴史を巡って---レヴィ＝ストロースとサルトル、『思想』(岩波書店) 1016号、査読無、70-88 (2008)

[学会発表] (計 19 件)

- ① 桑瀬章二郎、Reconnaitre Rousseau : les interprétations et les usages des *Confessions* pendant la Révolution, Colloque international : « Biographie et politique (1770-1830) », 2011年3月18日 (リヨン第二大学、フランス)
- ② 桑瀬章二郎、忠実であることルソーへの忠誠、中央大学人文科学研究所、2010年12月17日、日仏会館
- ③ 澤田直、La polysémie du terme « homme » chez Sartre- ce que révèle l'expérience de la traduction, 韓国フランス語フランス文学会主催国際シンポジウム《 Études de langue et littérature françaises en Asie du Nord-Est pour le XXIème siècle : Enjeux et perspectives », 2010年12月11日(高麗大学、ソウル、韓国)
- ④ 澤田直、L'expérience de la guerre dans Les Chemins de la liberté, Colloque international « Autour des Écrits autobiographiques de Sartre », 2010年11月27日(ソルボンヌ・パリ第4大学、フランス)
- ⑤ 澤田直、L'impact de la guerre d'Algérie sur les intellectuels japonais、「第一回アルジェリア・日本学術セミナー」、2010年11月9日(ウアリ＝ブメディエンヌ大学、アルジェ、アルジェリア)
- ⑥ 澤田直、「サルトルのイメージ論」、ワークショップ『20世紀フランス文学と写真』、2010年11月6日(東京大学、本郷)
- ⑦ 澤田直、Le style est-il l'homme même? - ce que Sartre analyse chez Flaubert、シンポジウム「フローベール 交差する文学 Flaubert. Intersections」、2010年5月8日(立教大学)
- ⑧ 菅谷憲興、Littérature comme négativité : Flaubert et Sartre、シンポジウム「フローベール 交差する文学 Flaubert. Intersections」、2010年5月8日(立教大学)
- ⑨ 澤田直、『独自＝普遍』としての人間---哲学と文学をつなぐ概念、実存思想協会、春季研究会シンポジウム『サルトルと文学』、2010年3月26日、(青山学院大学)
- ⑩ 菅谷憲興、Problèmes des dossiers documentaires、Journées d'études

internationales 《L' édition électronique du second volume de Bouvard et Pécuchet de Gustave Flaubert、2010年3月11日（立教大学）

⑪ 桑瀬章二郎、L' unité de l' œuvre de Rousseau : l' invention du mythe、Séminaire de l' Équipe Jean-Jacques Rousseau (CNRS - Université Paris IV-Sorbonne)、2009年12月12日（パリ第4大学、フランス）

⑫ 澤田直、Sartre et le Japon : réception, influence et actualité、Prière pour le bon usage de Sartre : le passé et le futur des études sartriennes、2009年11月14日、パリ国際大学都市日本館、落成八〇周年記念シンポジウム（フランス）

⑬ 澤田直、サルトルにおける homme の問題を考える—人間、男、そして女、シンポジウム『サルトルのモラル論 — 人間・他者・歴史をめぐる』、2009年10月9日（東北大学）

⑭ 澤田直、Sartre' s concept of Man: Existentialism and Feminism、英国サルトル学会年次大会、2009年9月19日、（フランス学院、ロンドン、イギリス）

⑮ 菅谷憲興、Transfert de citations : le cas du dossier “Médecine”、Journées d' études internationales 《Journées Bouvard》、2009年7月3日（高等師範学校、リヨン、フランス）

⑯ 澤田直、「サルトル＝ボーヴォワールというカップルは何だったのか」、日本サルトル学会・第22回研究例会シンポジウム、2008年12月13日（立教大学）

⑰ 菅谷憲興、Pour une bibliothèque virtuelle : à propos du dossier médical de Bouvard et Pécuchet、Journées d' études internationales 《Édition des dossiers documentaires de Bouvard et Pécuchet》、2008年12月11日（高等師範学校、リヨン、フランス）

⑱ 澤田直、「文学受容を通して見た日仏交流—ジャン＝ポール・サルトルの場合をめぐる」、日仏学術交流のルネッサンス（日仏交流150周年記念、日仏関連学会シンポジウム）、2008年9月27日（日仏会館）

⑲ 澤田直、「サルトル研究の現状と今後の動向」、日本サルトル学会・第21回研究例会、ワークショップ、2008年6月28日（青山学院大学）

〔図書〕（計16件）

① ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（6）』（共訳書）、401p（2011）

② 塚本昌則、鈴木雅雄、澤田直、平凡社、『〈前

衛〉とは何か？〈後衛〉とは何か？』592p 120-137、（2010）

③ 田口紀子、吉川一義、澤田直、京都大学出版局、『文学作品が生まれるとき 生成のフランス文学』516p 301-323（2010）

④ 石崎晴己、立花英裕、澤田直、藤原書店、『21世紀の知識人—フランス、東アジア、そして世界』387p（2010）

⑤ ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（5）』（共訳書）、509p（2010）

⑥ ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（4）』（共訳書および解説）、516p（2010）

⑦ 菅谷憲興、Rodopi (Amsterdam - New York)、*Flaubert épistémologue. Autour du dossier médical de Bouvard et Pécuchet*、276 p.（2010）

⑧ Rosa Maria Palermo Di Stefano, Stéphanie Dord-Crouslé, Stella Mangiapane, 菅谷憲興、Andrea Lippolis Editore (Messina)、Éditer le chantier documentaire de Bouvard et Pécuchet. Explorations critiques et premières réalisations numériques、261p.（2010）

⑨ 桑瀬章二郎、世界思想社、『ルソーを学ぶ人のために』356p.（2010）

⑩ 桑瀬章二郎、春風社、『書簡を読む』、立教大学人文叢書5、401p（2009）

⑪ ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（3）』（共訳書および解説）401p（2009）

⑫ ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（2）』（共訳書）403p（2009）

⑬ ジャン＝ポール・サルトル、澤田直、海老坂武、岩波書店、『自由への道（1）』（共訳書および解説）402p（2009）

⑭ Pierre-Louis Rey, Gisèle Séginger, 菅谷憲興、Presses Sorbonne nouvelle, Madame Bovary et les savoirs, 329p 189-197（2009）

⑮ 澤田直、中央公論新社、『哲学の歴史』第12巻、201-273（2008）

⑯ 菅谷憲興、春風社、『人文資料学の現在Ⅱ』、立教大学人文叢書4、270p i-x（2008）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

澤田 直之 (SAWADA NAOYUKI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：90275660

(2) 研究分担者

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：50318680

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号：10340465